

登録飼養衛生管理者による 豚熱ワクチン接種のための 研修【知識（基礎）】

本研修の目的

- 豚熱の発生状況や、豚熱の基本的な対策について学ぶ。
- 飼養衛生管理基準を遵守するための具体的な措置の内容を学び、**農場における飼養衛生管理の向上に必要な知識**を習得する。



農場における発生の予防、まん延の防止に必要な知識を習得する。

飼養衛生管理基準
の遵守は認定農場
の要件の1つ!

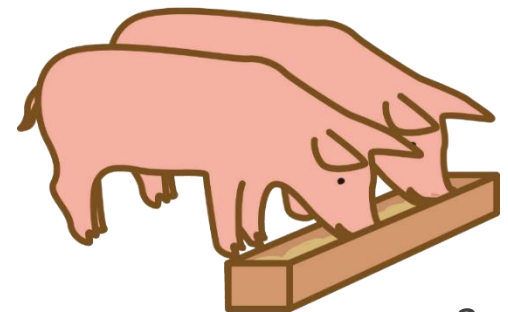


ア. 家畜の飼養衛生管理

- (ア) 国内における豚熱の発生の状況・動向
- (イ) 飼養衛生管理基準の内容及び同基準を遵守するための具体的な措置の内容
- (ウ) 豚熱の発生予防対策及びまん延防止対策に係る内容

イ. 豚熱ワクチンの基礎知識

- (ア) 豚熱ワクチンの正しい使用法、
ワクチンの性能、
ワクチンによる免疫付与関係



豚熱とは

- (1) 原因：豚熱ウイルス (**classical swine fever virus**)
- (2) 宿主：豚、いのしし ※ 人には感染しない
- (3) 分布：欧州、アジア、アフリカ、南米の一部の国々
※ 国内では平成30年9月に26年ぶりに発生
(岐阜県から全国へ拡大)
- (4) 症状：多頭数の衰弱・死亡、白血球の減少
※ 有効なワクチンが存在
- (5) 防疫：令和8年5月 法改正により選択的殺処分導入₄

豚熱とは

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です！



発生事例から知る

豚熱摘発のポイント！！

妊娠母豚の異状

発熱、元気消失、
食欲不振、流死産等...

群での発熱

発熱し、壁際に
折り重なり集まる
(パイルアップ)

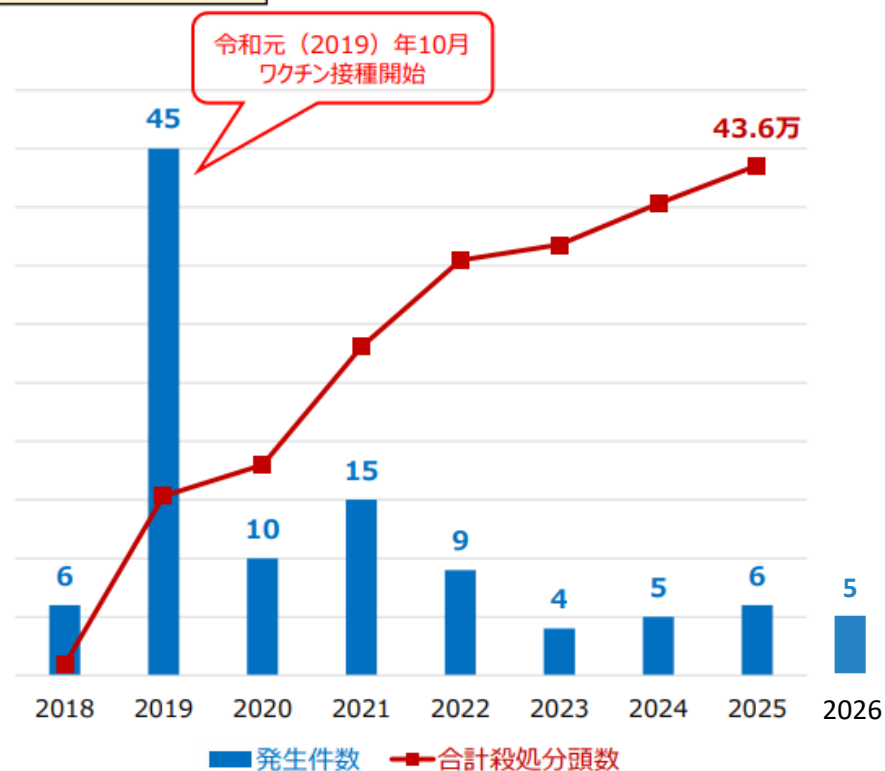
事故率の上昇

ヒネ豚の発生を
群単位で確認

豚熱発生経過

- 平成30年（2018年）9月に岐阜県で発生。以降27都県で計104事例発生し、約45万頭を殺処分。
- 令和元年（2019年）10月にワクチン接種開始。以降、発生は散発的となるも、野生いのししにおける感染拡大に伴い、接種区域は北海道を除く46都府県にも拡大。
- 令和7年度（2025年度）は、群馬県で4例（98～101例目）、千葉県で1例（97例目）、静岡県で1例（102例目）発生。

発生状況の推移



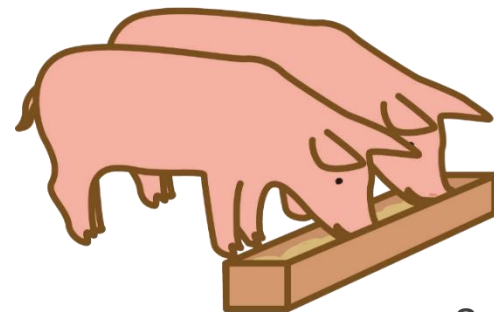
令和8年（2026）5月時点

ア. 家畜の飼養衛生管理

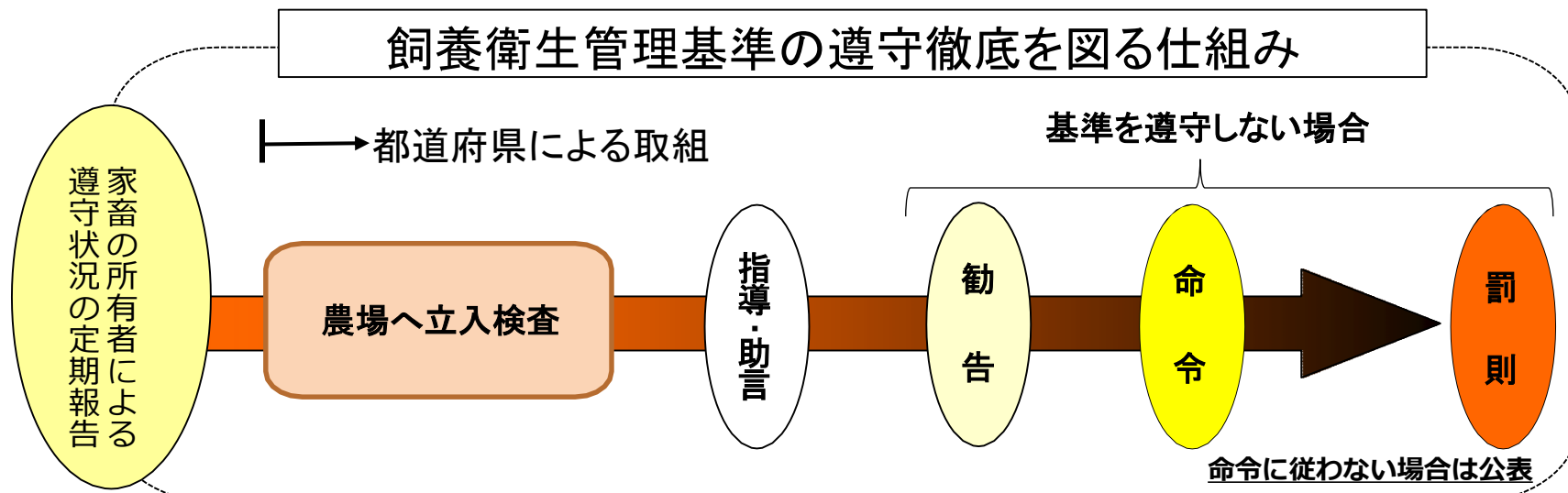
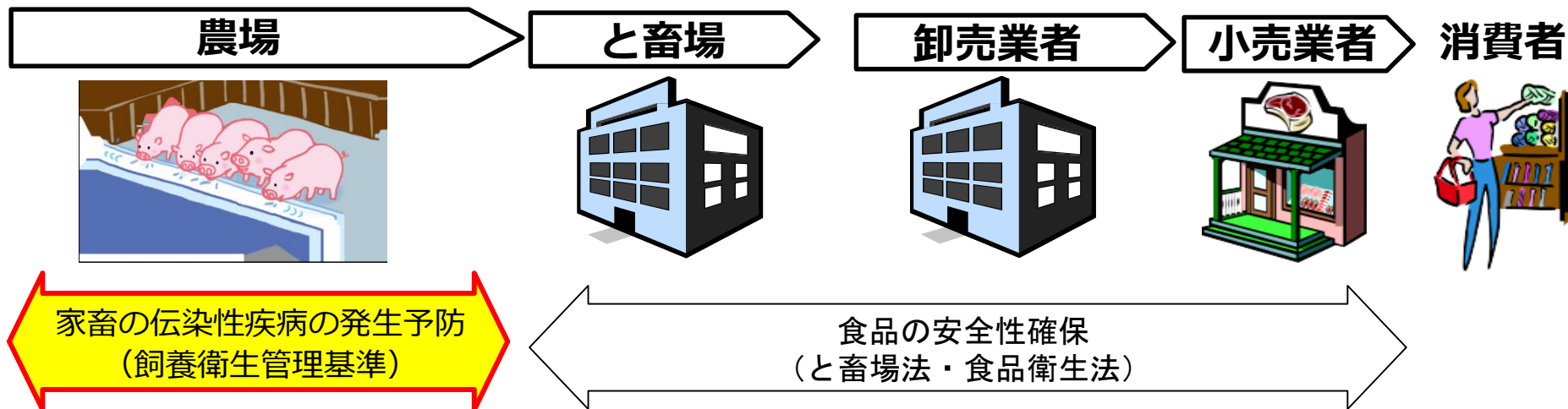
- (ア) 国内における豚熱の発生の状況・動向
- (イ) 飼養衛生管理基準の内容及び同基準を遵守するための具体的な措置の内容
- (ウ) 豚熱の発生予防対策及びまん延防止対策に係る内容

イ. 豚熱ワクチンの基礎知識

- (ア) 豚熱ワクチンの正しい使用法、
ワクチンの性能、
ワクチンによる免疫付与関係



飼養衛生管理基準



※不遵守の場合、家畜伝染病発生時には、手当金等が減額される可能性

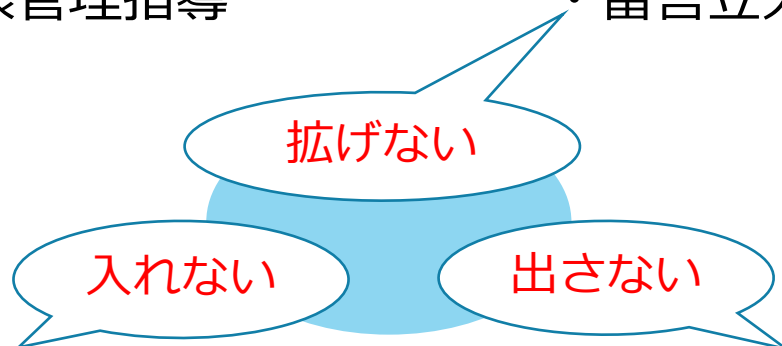
飼養衛生管理基準の内容（抜粋）

I 家畜防疫に関する基本的事項

- ・ 衛生管理区域の設定
- ・ 飼養衛生管理マニュアルの作成
- ・ 獣医師等の健康管理指導

III 衛生管理区域内における汚染拡大防止

- ・ 区域内の整理整頓、ねずみ駆除
- ・ 施設、器具、機材の洗浄・消毒
- ・ 畜舎立入時の手指消毒、着替え



II 衛生管理区域への病原体の侵入防止

- ・ 衛生管理区域専用の衣服、靴
- ・ 区域立入時の手指・車両の消毒
- ・ 野生動物の侵入防止

IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止

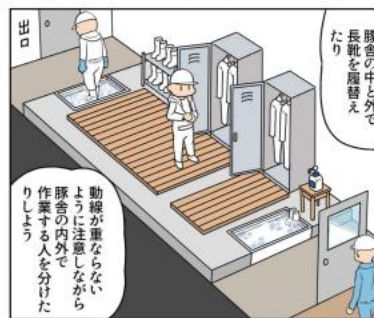
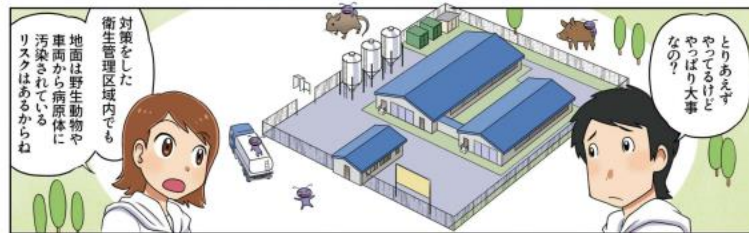
- ・ 区域外出時の手指・車両の消毒
- ・ 家畜の健康観察（出荷、移動等）
- ・ 特定症状発見時の早期通報

飼養衛生管理基準のガイドブック

飼養衛生ガイドブック

豚、いのしし編

管理基準










III 衛生管理区域の衛生状態の確保

25 畜舎に立ち入る者の手指消毒等 豚舎の入口で



飼養衛生管理の自己点検結果

	熊本県		全国
	令和6年2月	令和7年11月	令和7年11月
(1)衛生管理区域に立ち入る者の 手指消毒等	98%	 99%	98%
(2)衛生管理区域専用の 衣服及び靴 の設置並びに使用	99%	 100%	99%
(3)衛生管理区域に立ち入る 車両消毒等	97%	 99%	98%
(4)畜舎に立ち入る者の 手指消毒等	99%	 99%	97%
(5)畜舎ごとの専用の 衣服及び靴 の設置並びに使用	96%	 96%	92%
(6)畜舎外での病原体の汚染防止	100%	 100%	99%
(7)衛生管理区域内の整理整頓及び消毒	100%	 99%	97%

遵守率は上昇。実効性がある防疫体制になっているか引き続き点検・改善をお願いします。

豚熱における衛生対策のポイント①

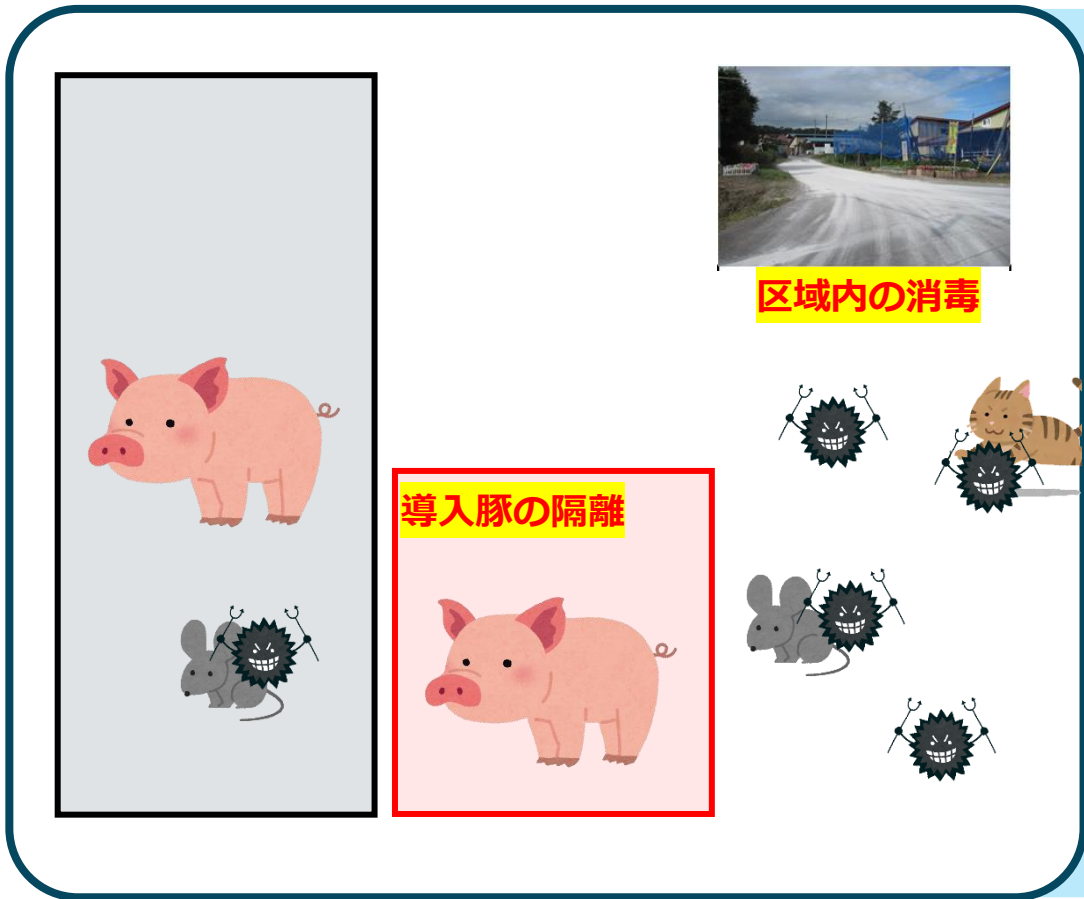
ポイント

区域外から区域内への
ウイルス持込みを減らす



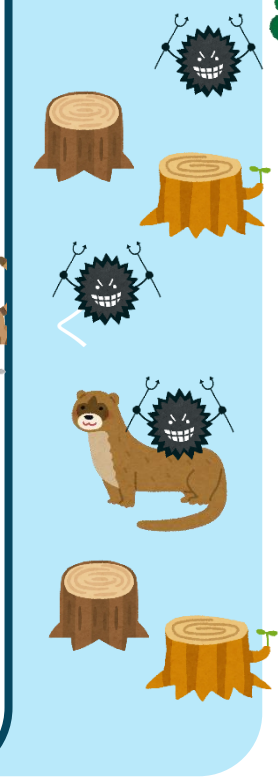
柵の定期点検

樹木の伐採
整理整頓



区域内の消毒

区域外の消毒



導入豚の隔離

豚熱における衛生対策のポイント②

ポイント

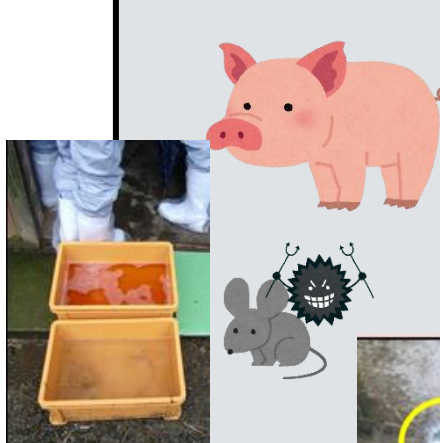
区域内から豚舎へのウイルス持込みを減らす
豚舎間の汚染拡大防止



専用靴・衣服の使用 手指消毒



重機等の消毒



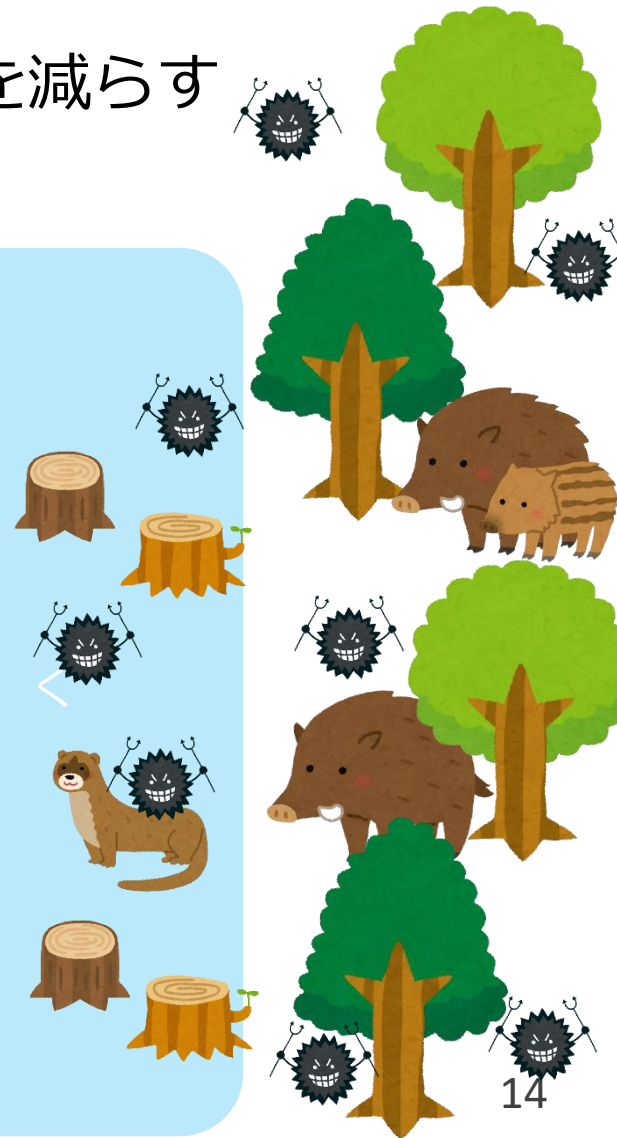
適切な消毒液



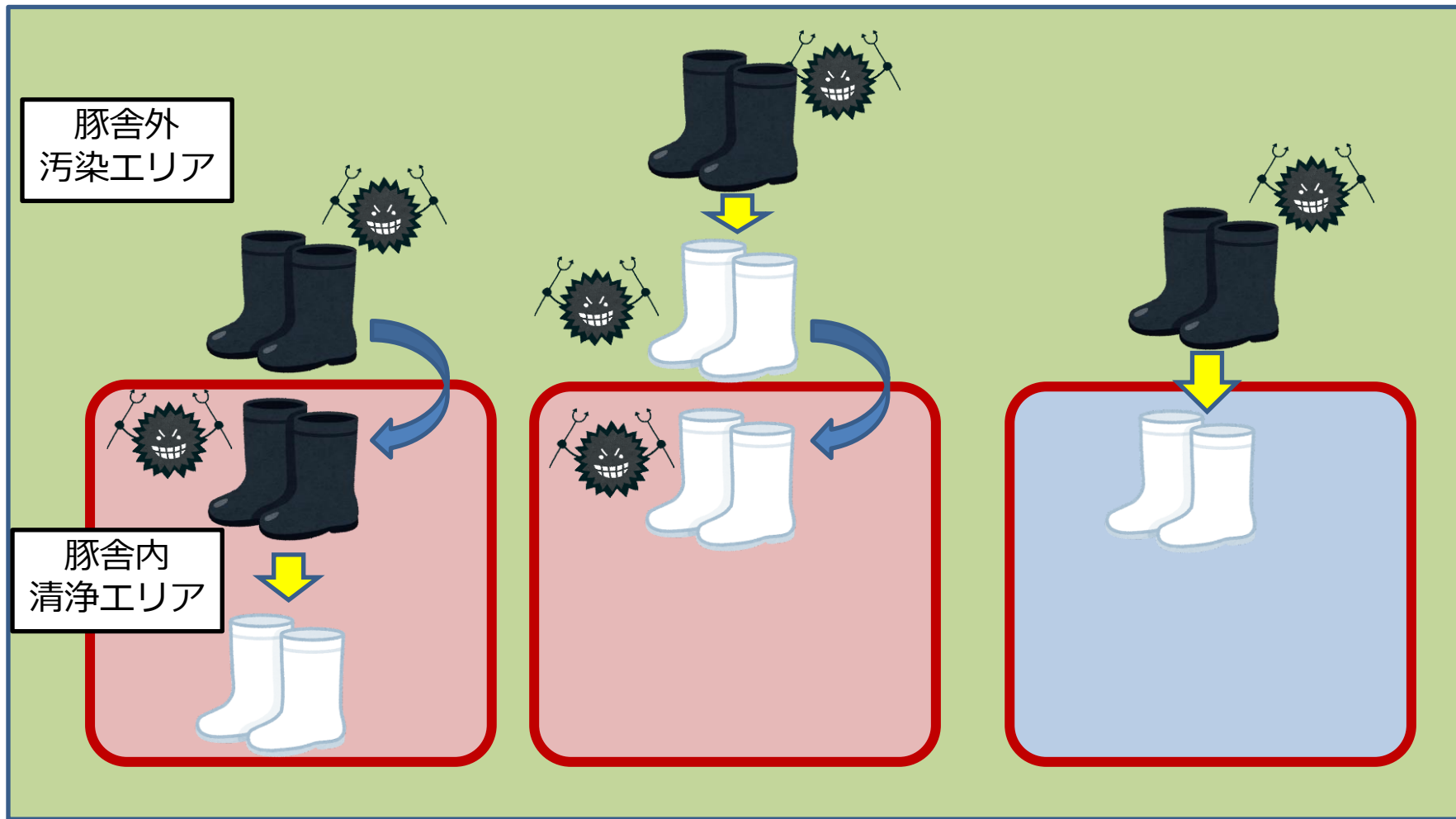
防鳥ネットの設置





壁や天井の穴の補修

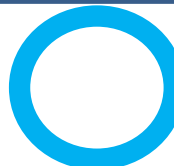


(補足) 交差汚染防止



 外用長靴で豚舎に入っている

 内用長靴を豚舎外に出している

 汚染/清浄エリアの境界で履き替える15

豚熱における衛生対策のポイント③④

ポイント

山林等の土の持込み防止
獣医師等による衛生管理指導



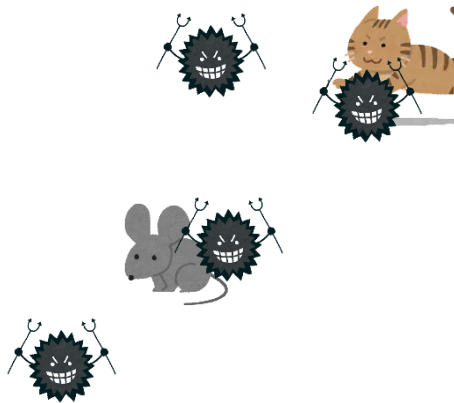
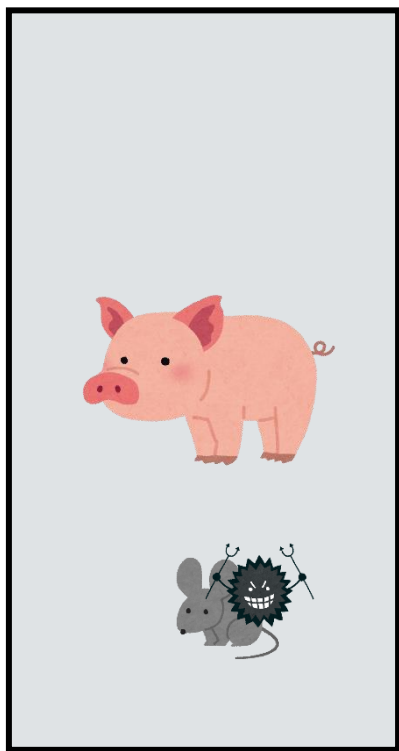
山林作業の後に
区域に立ち入らない



区域内に土砂を入れない



衛生管理指導



豚熱における衛生対策のポイント

◆ CSF(豚コレラ)対策動画

農家が守るべき4つのポイント

MAFF 豚コレラを防ぐ！～養豚農家が守るべき...

豚コレラを防ぐ！
～養豚農家が守るべき4つのポイント～



農林水産省

日々の作業における注意点（ソフト編）

MAFF 日々の作業における注意点～飼養衛生管...

日々の作業における注意点
～飼養衛生管ソフト編～



農林水産省

農林水産省のHP
で、わかりやす
い動画を紹介
しています！

病原体を侵入させない対策（ハード編）

MAFF 病原体を侵入させない対策～飼養衛生管...

病原体を侵入させない対策
～飼養衛生管ハード編～



農林水産省

ウイルスはどうやって侵入するのか

MAFF STOP! 豚コレラウイルス～ウイルスは...

ウイルスはどうやって侵入するのか

農林水産省



疫学調査時の写真一例（発生農場）

1. 畜舎ごとの専用の衣服及び靴の設置並びに使用（項目25）
2. 畜舎外での病原体による汚染防止（項目27）
3. 衛生管理区域への野生動物の侵入防止（項目23）
4. 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置（項目28）
5. ねずみ及び害虫の駆除（項目30）

項目25 畜舎ごとの専用の衣服と靴



豚舎入口：消毒槽、豚舎専用長靴なし



発生豚舎（離乳舎）外観：
長靴交換や靴底消毒の実施なし



発生豚舎外観：靴底消毒は実施していたが、
長靴及び作業着の交換の実施なし



豚舎外観：靴底消毒は実施していたが、
長靴及び作業着の交換の実施なし

項目25 畜舎ごとの専用の衣服と靴



豚舎入口：消毒槽、豚舎専用



なし

汚染エリアと清浄エリアの**区分け**
靴・衣服の交換

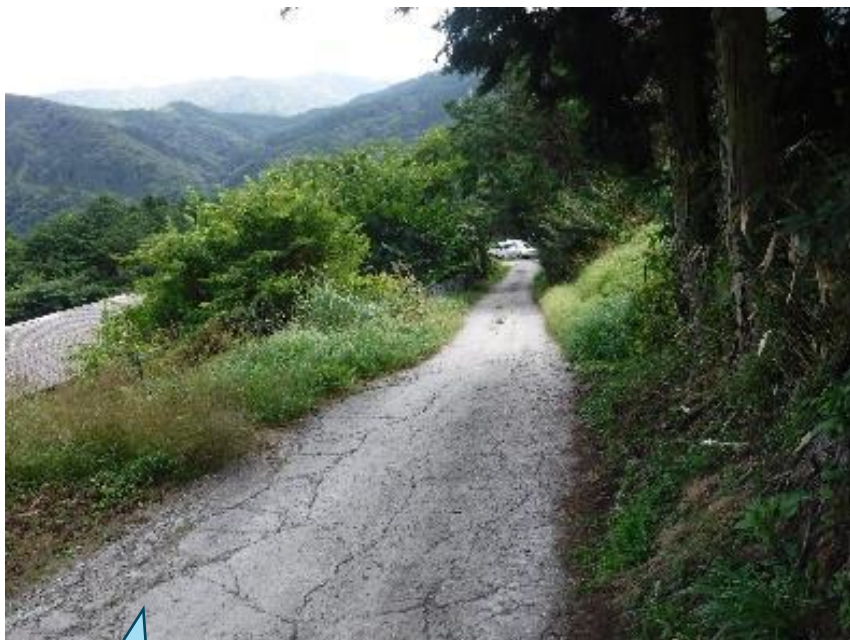


発生豚舎外観：靴底消毒は実施していたが、
長靴及び作業着の交換の実施なし



豚舎外観：靴底消毒は実施していたが、
長靴及び作業着の交換の実施なし

項目27 畜舎外での病原体による汚染防止



飼養衛生管理区域間の公道：
畜舎からの豚移動時に**未消毒で歩行**

洗浄・消毒済みの
移動用ケージ等で移動



豚舎間の移動用通路：
肥育豚の移動時に**未消毒で歩行**

移動前の**消毒**
閉鎖型通路への変更

項目23 野生動物の侵入防止（防護柵）



ワイヤーメッシュ柵が**草に覆われている**
⇒野生動物の隠れ場所
強風で倒れる

防護柵の周辺は
除草・伐採



農場周囲のワイヤーメッシュ柵：
45cm程度と低い部分あり

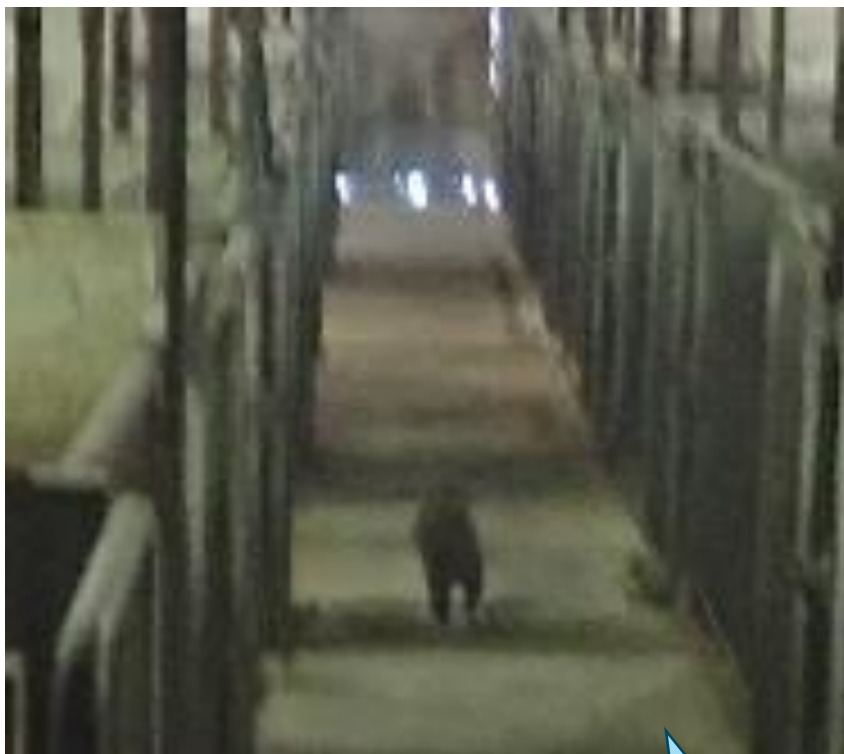
いのしし対策は
120cm高



ロールフェンス等で
隙間を塞ぐ（**補強**）

障害物により柵が設置できない箇所があるため**隙間あり**

項目28 野生動物の侵入防止（防鳥ネット）



豚舎内で見られたネコ

侵入経路を探す
塞ぐ



ユニットタイプの飼育箱：
天井はあるが**周囲に壁面、ネット等は未設置**

建屋の設置
防鳥ネットを張る

項目30 ねずみ及び害虫の駆除



豚舎壁面の破損部



豚舎壁面の破損部

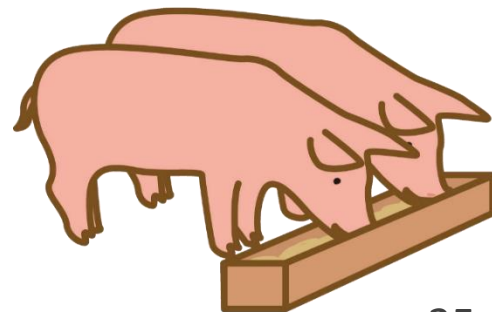
破損部の修理
殺鼠対策
害虫対策

ア. 家畜の飼養衛生管理

- (ア) 国内における豚熱の発生の状況・動向
- (イ) 飼養衛生管理基準の内容及び同基準を遵守するための具体的な措置の内容
- (ウ) 豚熱の発生予防対策及びまん延防止対策に係る内容

イ. 豚熱ワクチンの基礎知識

- (ア) 豚熱ワクチンの正しい使用法、ワクチンの性能、ワクチンによる免疫付与関係



我が国の豚熱対策

豚熱対策の3本柱

水際対策

日本にウイルスを入れさせない

感染経路遮断対策
(飼養衛生管理の向上)

農場にウイルスを入れさせない

野生イノシシ対策

環境中のウイルスを封じ込める

感受性動物対策

適切なワクチン接種

+

野生イノシシ対策

(1) サーベイランスの実施

- ・感染状況の把握は、経口ワクチン・捕獲強化など野生イノシシにおける豚熱対策の検討に必須
- ・飼養豚における対策に必須

(2) 捕獲の強化

- ・密度低下により、感染拡大を抑制
- ・感染イノシシの絶対数を抑制することで、農場への感染拡大リスクを低下

(3) 経口ワクチン散布 ※佐賀、長崎、宮崎で実施

- ・免疫を獲得させることにより、感染地域内における抑制・感染地域拡大の抑制

(4) リスクコミュニケーションの推進

- ・狩猟関係者・市民に向けた対策の周知推進

サーベイランスの実施

経口ワクチン
散布状況も確認
できます

平成30年9月から全都道府県（北海道を除く。）で
野生イノシシのサーベイランスを開始

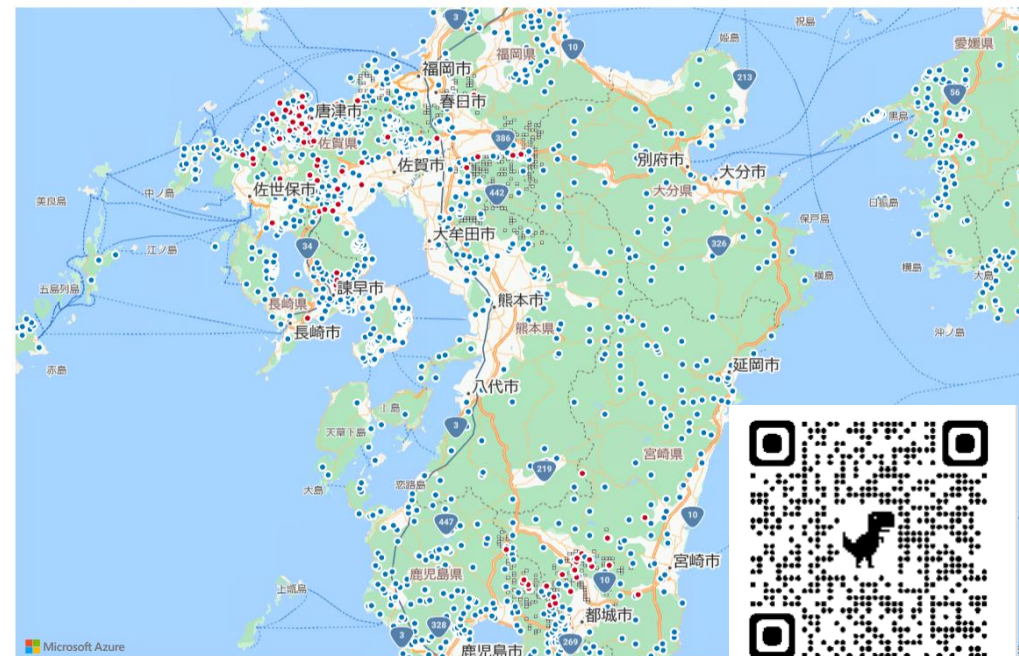
※ 1県当たり299頭/年 以上



野生イノシシ検査情報

野生イノシシ検査情報

データの凡例：□ワクチン ●陰性 ●陽性



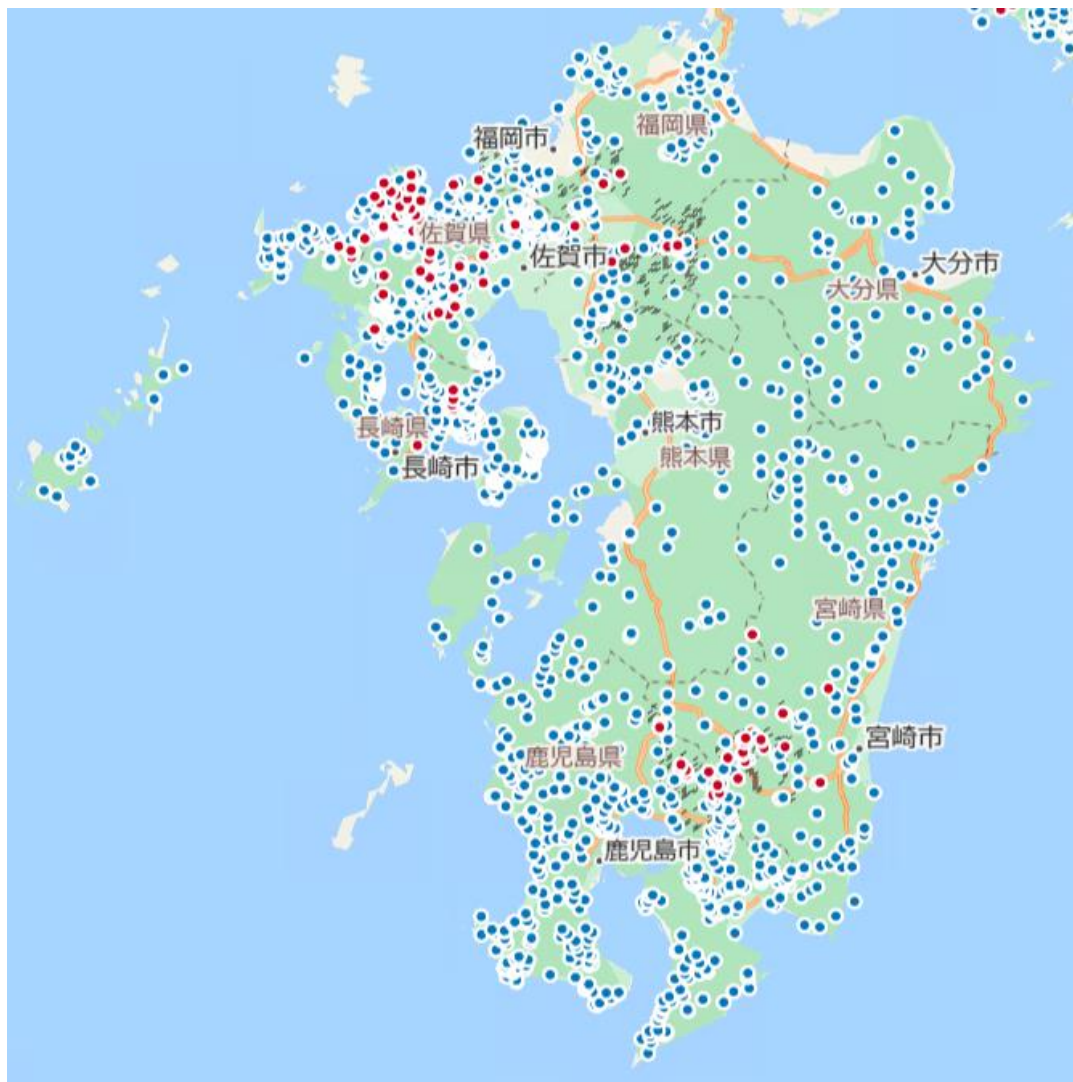
熊本県の状況

○検査状況

令和4年度：305頭
令和5年度：449頭
令和6年度：330頭
令和7年度：527頭

- 令和5年度から野生いのしし
専用検査施設を使用
⇒家保での交差汚染の防止

九州における野生いのしし感染確認状況



県名	初感染 確認日	現在の 感染頭数
佐賀県	R6/6/6	153頭
長崎県	R7/2/3	53頭
宮崎県	R7/4/11	105頭
福岡県	R7/8/19	53頭
鹿児島県	R7/11/19	17頭
熊本県	R8/3/26	2頭

令和8年5月8日時点

当県の経口ワクチン散布推奨地域指定までの経緯

令和7年(2025年)

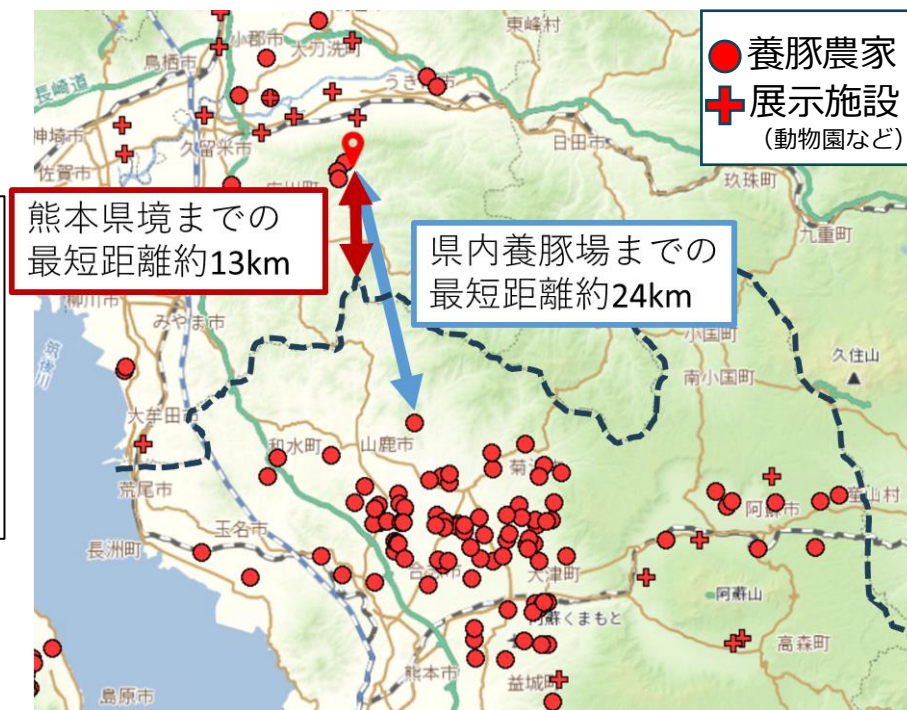
1月14日 **八女市**の野生いのししで感染初確認(福岡県内21例目)

1月19日

- ・ 福岡県で短期間に陽性事例が連続して確認され、一部地域に相当程度浸潤している可能性が高いと考えられること
- ・ 熊本県と隣接する地域において豚熱陽性個体が確認されていること
- ・ 繁殖期、狩猟期に入り、野生いのししの行動範囲が広がっていること



以上を踏まえ、
農林水産省が本県を
豚熱経口ワクチンの散布推奨地域
に決定
→県北地域で散布実施



県北地域での経口ワクチン散布

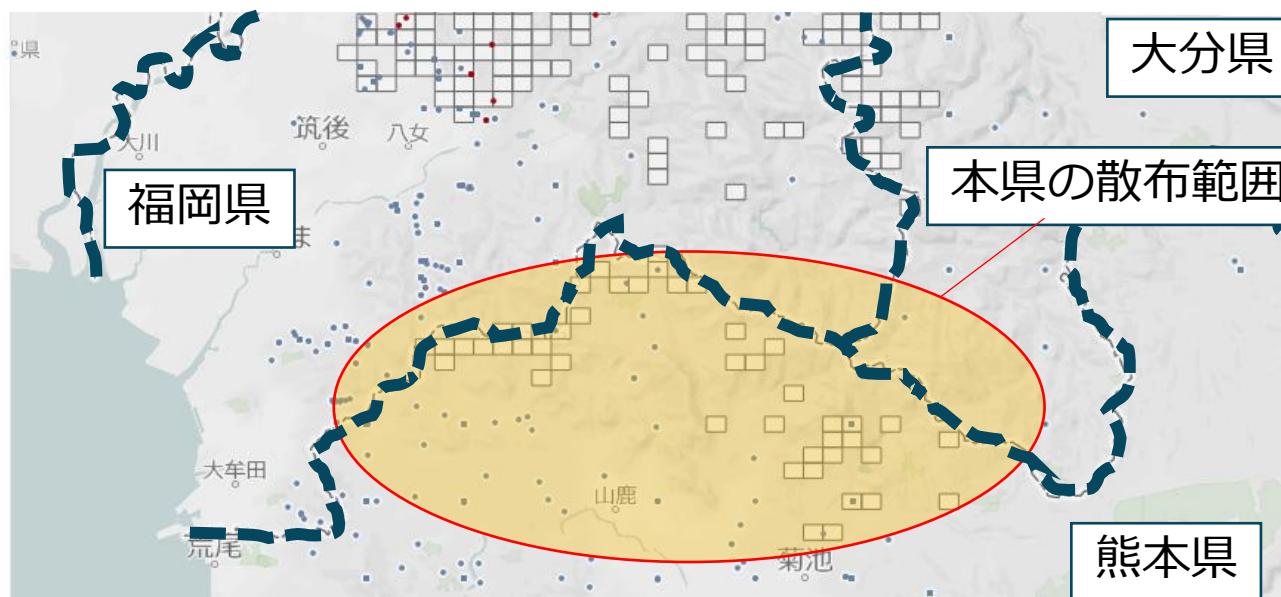
緊急散布（2回）

1回目：令和7年(2025年)12月2日～4日

2回目：令和8年(2026年)1月23日～2月5日

山鹿市、菊池市、和水町で散布

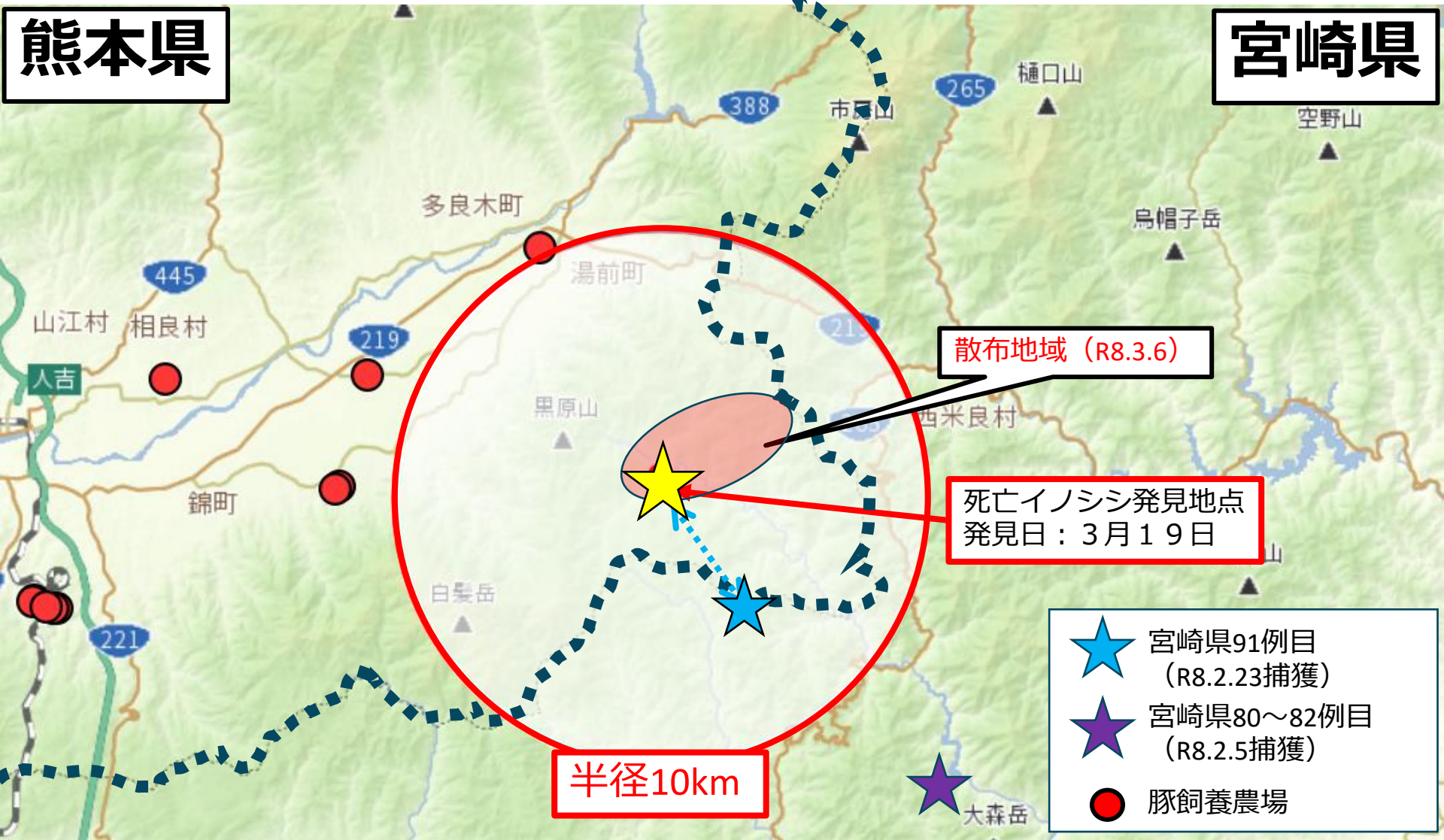
散布個数：計3,552個



県南地域でのワクチン散布

熊本県

宮崎県



散布地域 (R8.3.6)

死亡イノシシ発見地点
発見日: 3月19日

半径10km

- ★ 宮崎県91例目 (R8.2.23捕獲)
- ★ 宮崎県80~82例目 (R8.2.5捕獲)
- 豚飼養農場

宮崎県小林市での陽性事例(宮崎県80~82例目)を受け、令和8年3月6日に多良木町で経口ワクチンの緊急散布を実施

本県における令和8年度の散布予定

県北地域

散布時期：前期、後期

地域：山鹿市、菊池市、和水町での散布を予定

散布地点：令和7年度の緊急散布と同様の地点

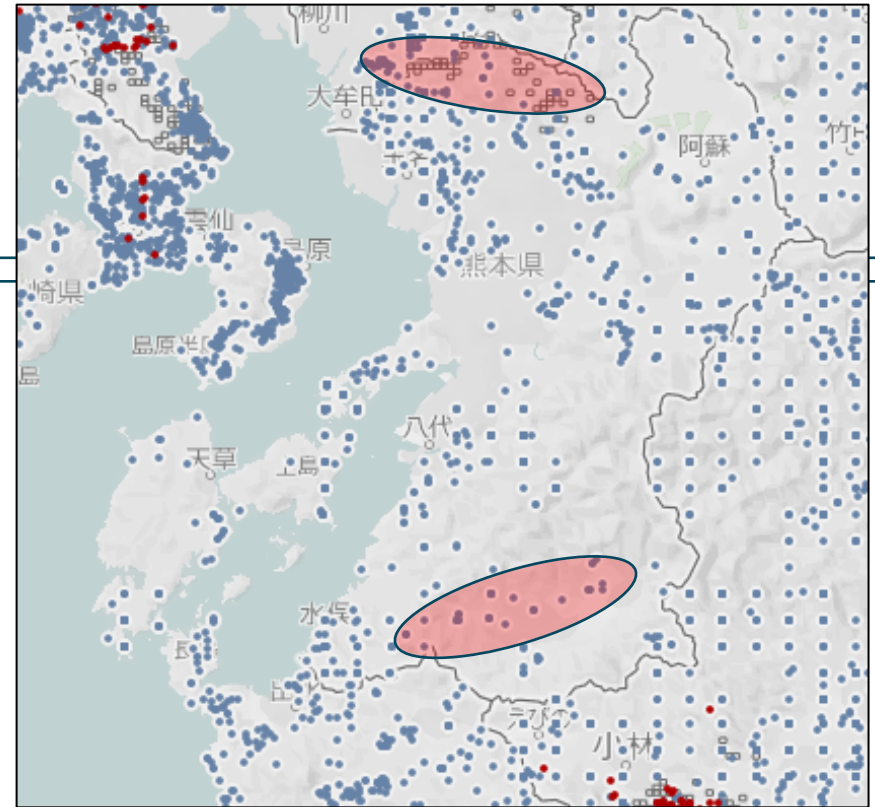
散布者：委託予定

県南地域

散布時期：前期、後期

地域：多良木町、あさぎり町、錦町、
人吉市の山際（想定）

散布者：委託予定



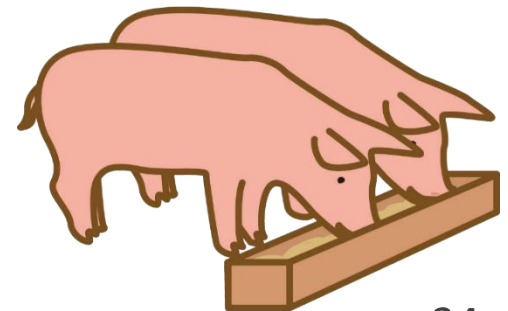
※感染状況により他の地域でも緊急散布を行う可能性あり

ア. 家畜の飼養衛生管理

- (ア) 国内における豚熱の発生の状況・動向
- (イ) 飼養衛生管理基準の内容及び同基準を遵守するための具体的な措置の内容
- (ウ) 豚熱の発生予防対策及びまん延防止対策に係る内容

イ. 豚熱ワクチンの基礎知識

- (ア) 豚熱ワクチンの正しい使用法、
ワクチンの性能、
ワクチンによる免疫付与関係

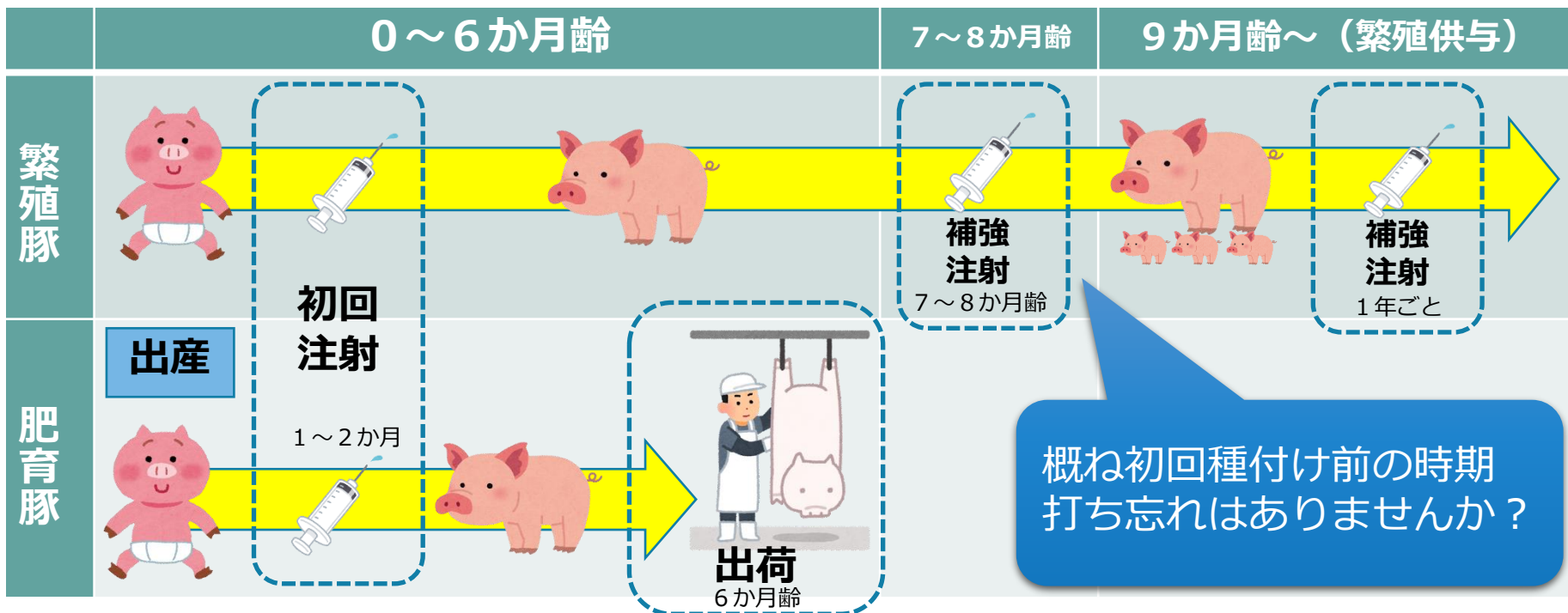


重要!

20日以内に出荷する豚には接種しない

豚熱ワクチンの接種時期

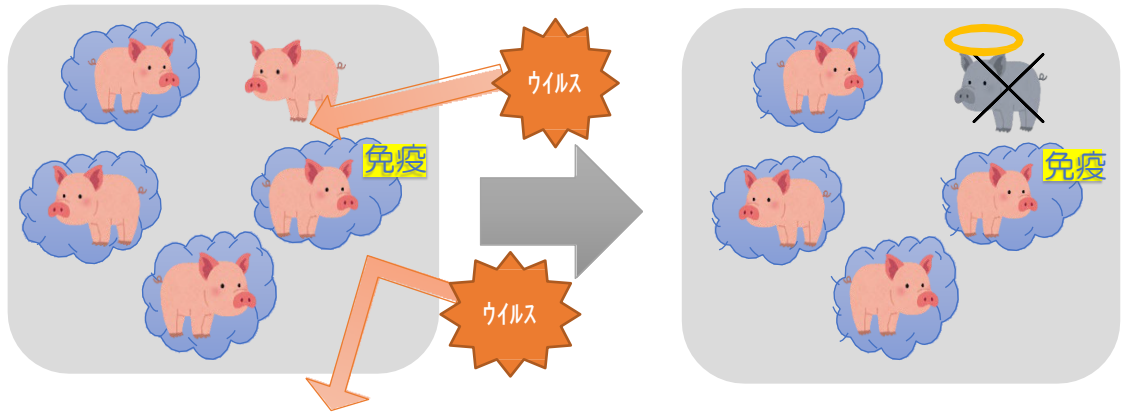
- 豚熱ワクチンは用法用量及びその参考事項に従い使用
 - 1) 子豚：母豚からの移行抗体を考慮し、1～2か月齢時に初回の注射を行う
 - 2) 繁殖候補豚：初回注射から6か月後に補強注射を行う
 - 3) 繁殖豚：補強注射後1年ごとに注射する
- 肥育豚（肉用豚）は約6か月齢で出荷 ⇒ 基本的に**1回接種**
(肥育期間が長い黒豚も同じ)
- 繁殖豚（母豚）の平均供与期間は3年 ⇒ 供与期間によるが**2回以上接種**



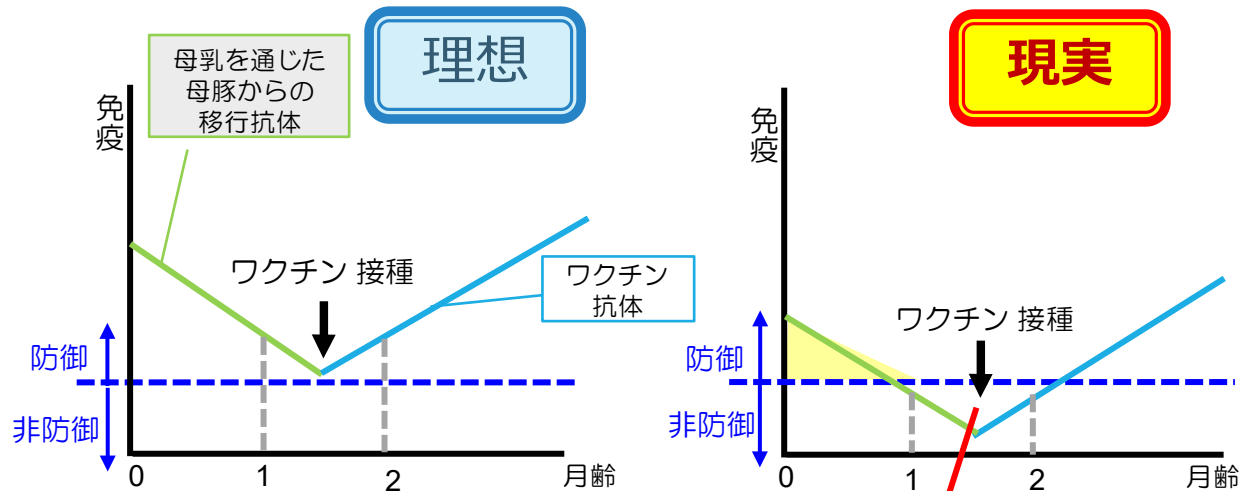
概ね初回種付け前の時期
打ち忘れはありませんか？

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

- ① 全ての豚が免疫を獲得できるわけでない
 ワクチンで免疫を獲得できる割合は
87.5%



- ② 子豚のワクチン接種のタイミングは 母豚群の抗体価の傾向で決まる
 全ての子豚へ適切な時期に
 ワクチン接種をすることは困難



POINT !

接種した全ての豚が免疫を獲得できるわけでない
 ⇒ **飼養衛生管理基準の遵守**で農場を守る！

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

③母豚からの移行抗体が高い時期にワクチン接種すると抗体を獲得できない。



適切な時期より早く接種しても効果が十分得られないんだ！

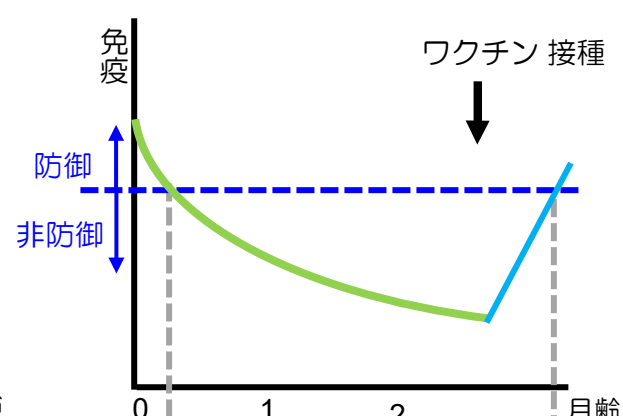
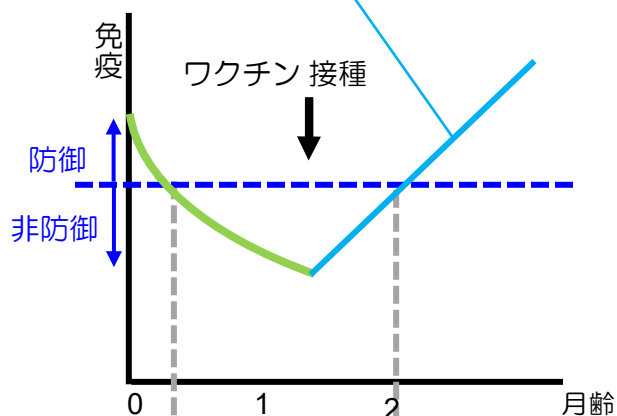
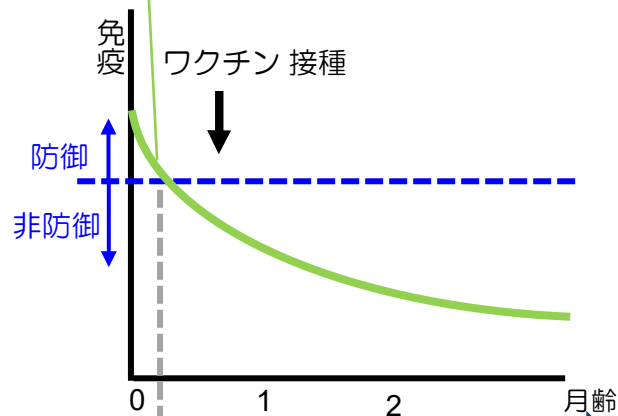
母乳を通じた母豚からの移行抗体

早すぎる

ワクチンによる獲得抗体

適切

遅すぎる



POINT !

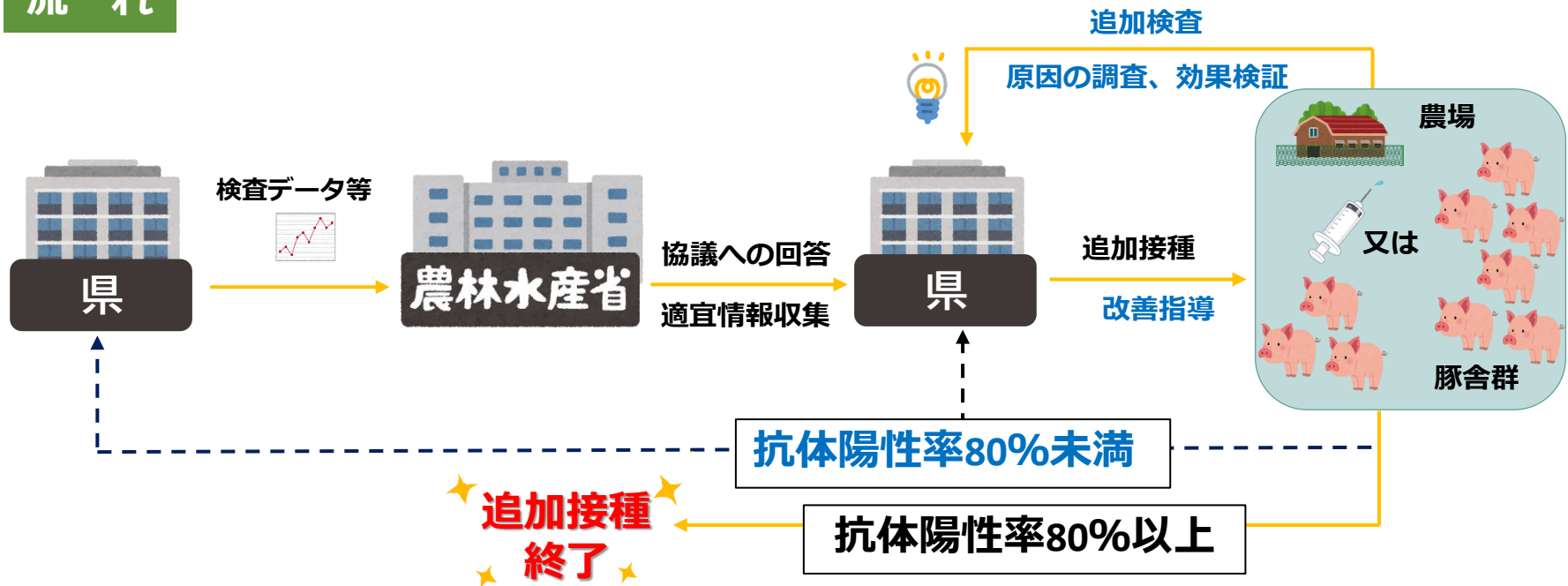
適切な時期に接種しないと、非防御期間が長くなる

豚熱ワクチンの追加接種

対象

抗体陽性率80%未満の農場又は豚舎群

流れ

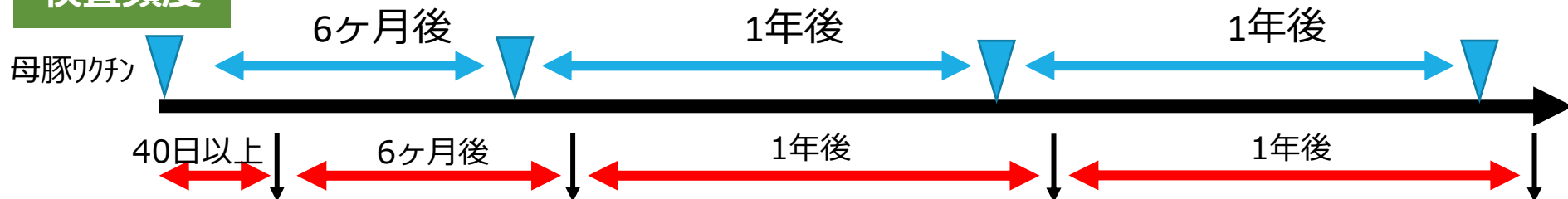


免疫付与状況確認検査

目的

母豚・肥育豚の抗体価・抗体陽性率を把握
⇒子豚の接種適齢時期の検討

検査頻度



時期	初回接種後 40日以上後	6ヶ月後	1年後	1年6ヶ月後	2年6ヶ月後
母豚	全戸	30戸	30戸	30戸	30戸
一貫の 肥育豚	全戸	全戸	30戸	30戸	30戸

終了

※検査頭数：30頭以上/戸

評価

抗体陽性率 80%以上 → 問題なし
80%未満 → 追加接種・接種時期の変更

免疫付与状況確認検査結果（3回目）

(1) 実施農場数：110農場

(2) 検査方法及び検査頭数

	ELISA法	中和試験
母豚、肥育豚	3,971頭	1,663頭

(3) 検査結果

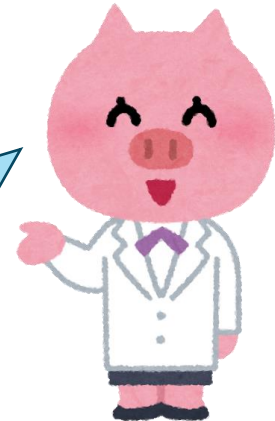
- ・抗体陽性率は107農場で80%以上
- ・80%未満の農場については、時期をずらして再検査

要因として、以下のようなことが考えられます！

- ・ワクチン接種日齢が早く、移行抗体の影響により抗体獲得できなかった
- ・ワクチン融解後、接種完了までの温度管理が不適切だった
- ・PRRS感染が抗体価の上昇を遅らせた

<対処>

- ・母豚の抗体検査を実施し、接種日齢を再検討
- ・ワクチン融解後、接種完了まで保冷バッグで持ち運び
- ・PRRS対策として、飼養衛生管理を見直し



免疫付与状況確認検査結果（3回目）

○母豚の抗体価から推定される子豚のワクチン接種適齢期

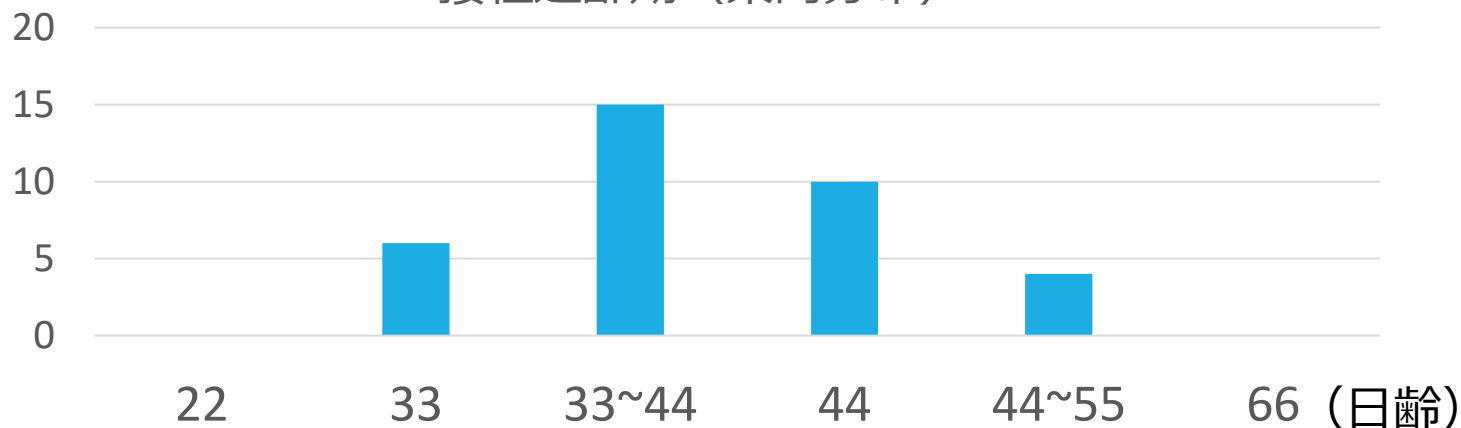
※接種適齢期：子豚にワクチンを初回接種した場合に、群としての抗体獲得率が80%を超えると推定される日齢

(1) 実施農場数：35農場

(2) 結果

(農場数)

接種適齢期（県内分布）



注意点

あくまでも検査実施時点の各農場の母豚30頭の結果から推定される値です。